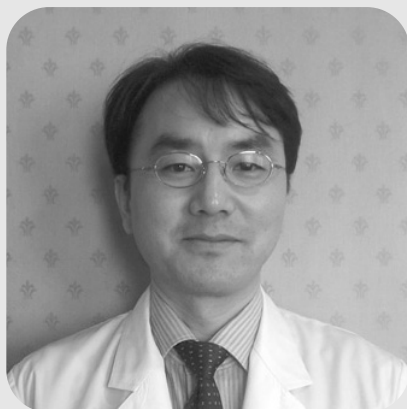


自己紹介



神経内科 わくたに ようすけ
涌谷陽介 先生

初めまして。この4月から神経内科および認知症疾患医療センターに赴任しました、涌谷陽介(わくたにようすけ)と申します。高尾武男理事長が長年続けて来られた『もの忘れ外来』を引き継ぐとともに、認知症疾患医療センターとしての外来診療も開始しています。

4月より毎週月曜日の夕方5時から高尾芳樹センター長をはじめとする関係者が、センターのあり方やスムーズな受診方法、医療連携、地域連携等について討議を重ねています。全仁会のスタッフの皆様にも認知症疾患医療センターのことをご説明する機会も作らなければなりません(概略は、平成病院のホームページ内にあるFM倉敷健康アラカルトの第136回放送分(H24.4.18)をお聞きください)。

また、5月から認知症疾患医

療センターの重要な機能である専任の精神保健福祉士による相談業務も始まりました。不安を抱えて当院・当センターに相談にいらっしゃる方々の最初の窓口になっており、時には1時間以上もかけて丁寧に聞き取りや問診をしていただいています。この聞き取りや問診が認知症の適切な診断と迅速な初期治療・支援にとっても重要です。さらに初診の時には、患者さんおよびご家族が診察室にいらっしゃるまでに、事務の方々、看護師さん、臨床心理士さん、検査部・放射線部の方々に大変お世話になっています。認知症のチーム医療をまさに体現しており、認知症の専門医としてとても恵まれた環境で仕事をさせていただいていると思います。ありがとうございます。

認知症の方は、認知症以外の病気もお持ちの場合も多いので、各診療科の先生方にも大変お世話になっています。認知症の方は、記憶や認知機能が衰える中で、自分の体調管理に関する記憶も薄れてしまう場合も多いので(「いつ」から体がしんどいのか覚えていない、「どんなふう」に体がしんどいのか表現が難しくなる、など)、先生方の適切な観察眼・診察技術と検査・治療に依るところが大きくなります。この場を借りて御礼申し上げます。

私は診察室自体も重要な連携(地域連携も含め)の場と考えていますので、関係している外来通院中の認知症患者さんの事で疑問に思うことがあったりしたら(患者さんおよびご家族の同意があれば)、診察室に陪席していただいても全然OKです。どんな処方が出ているかは知っていても、医師がどんな診察をしているか、何のためにその薬を加えたのか、ご家族にどのように説明しているのか、医師がケアスタッフにどのようなサポートを望んでいるのか、意外に知らないものです。いわゆる医療連携・医療介護連携の中でFace to Faceの関係が出来るだけ多い方が、患者さんおよびご家族のためにもなると信じています。

また、入院中・入所中の患者さんにも認知症をお持ちの方も多いためと思いますので、薬物的対応、非薬物的対応、環境整備、リハビリテーションなどで、気になること・疑問に思うことがあればお気軽にお尋ねください。(殺到しすぎると私の脳が混線するかもしれません…しかも、私自身忘れっぽいのがタマニキズですので)

それでは、どうぞ今後ともよろしくお願い致します。

涌谷先生は毎週火～土曜の午前もの忘れ外来と入院患者さんの治療を担当されています。

Doctor's Eyes